

海燕社

の小さな

映画会 2024

6/22(土) 14:00~ 沖縄県立博物館 美術館 講堂(3F)

受付 13:15 開場 13:30 料金 1,200円(予約制) 当日 1,500円
予約(海燕社) ☎ 098-850-8485 / ✉ mail@kaiensha.jp
※小中高校生は無料(予約必須)

九州・沖縄から

文化力

POWER OF CULTURE
後援：沖縄県 那覇市



予約用 QR

沖縄初上映

はだしのゲンが 伝えたいこと

製作 シングロ、トモコーポレーション / 2011年 / 32分



© シングロ、トモコーポレーション

監督：石田優子

製作：山上徹二郎 渡部久仁子

撮影：大津幸四郎

編集：石田優子

出演：中沢啓治

聞き手：渡部朋子

ナレーション：小林さやか

企画：渡部朋子

1945年8月6日、中沢啓治さんは広島市内の神崎国民学校（現在の神崎小学校）で被爆する。国民学校の1年生、6歳だった。中沢さんは奇跡的に助かったが、父・姉・弟を亡くした。被爆直後に生まれた妹も4ヶ月で亡くなる。中沢さんは、自身が目撃した広島原爆の惨状をまるでカメラで撮影するかのように、つぶさに脳裏に焼きつけている。『はだしのゲン』に表現されている広島的光景は、中沢少年が自ら体験したことを、ゲンに託して描いたものだ。

現在中沢さんの作品の原画は、広島平和記念資料館に収蔵されている。『はだしのゲン』の巻頭カラーページや単行本の表紙など、色鮮やかな原画の数々。単色の墨で描かれた『はだしのゲン』の原画には、描いた当時の細かな筆跡やタッチが残っている。中沢さんの願いは、戦争や核兵器のない未来であり、子供たち自らが平和を追求し続けてほしいということだ。「それには、漫画がひとつの役割を果たしていると思う。文章だと読みづらい子にも、漫画なら素直に入っていく。子供達に、素直に戦争反対の気持ちが根付いていったら作者冥利につきる。」中沢さんが、今回のドキュメンタリー映画に託したメッセージである。

映文連アワード 2012
文部科学大臣賞受賞

ふじ学徒隊

製作 海燕社 / 監督 野村岳也 / 2012年 / 48分



© 海燕社

証言：仲里 ハル／宮城 トヨ子／宮城 喜久子／田崎 芳子／渡久地 敏子／名城 文子／
真喜志 光子／真喜志 善子／平良 ハツ／嘉手納 米子／新垣 道子／大城 正植

製作委員会：宮城 鷹夫／福地 曠昭／安仁屋 政昭／星 雅彦／海勢頭 豊／古謝 将嘉
新垣 道子、与儀 尚子、城間 妙子、玉盛 照子（ふじ同窓会）／
野村岳也、城間あさみ、澤沢健（海燕社）

この作品は、生と死のはざまに生きた三ヶ月余の少女たちの記憶の記録である。
少女たち一人一人を通して、生きるとは、
死ぬとはどんなことを考える時、
戦争がどんなに非情なものかが浮彫りになるであろう。

「かならず、生き残れ。親元へ帰れ」「絶対に死んではならない」
小池勇助隊長の最後の言葉より

沖縄戦で動員された女子学徒隊は10校およそ500人。激戦の本島南部では、ほとんどの学徒隊が半数近くの戦死者を出した。そんな中、わずか3名の戦死者にとどまったのがふじ学徒隊である。1941年、ヘチマ襟の制服を着た積徳高等女学校の1年生の写真がある。彼女たちは、一度も憧れのセーラー服を着ることはなかった。

上映作品、上映日は都合により変更することがあります。詳細は、海燕社のウェブサイト (<http://www.kaiensha.jp>) や SNS にてご確認ください。

古書店 うみつばめ

問合せ ☎ 098(850)8485 / メール k.umitubame@gmail.com

海燕社のウェブ古書店うみつばめ。年中無休で開店しています。
こだわりは、画家 石垣克子デザイン、オリジナルブックカバー
(単行本・新書・文庫本)とオリジナルしおり(3種類)です。
いずれかをご購入の本におつけします。
本とご縁がありますように。



ウェブ古書店